

年度末に向けて残予算が発生すれば、

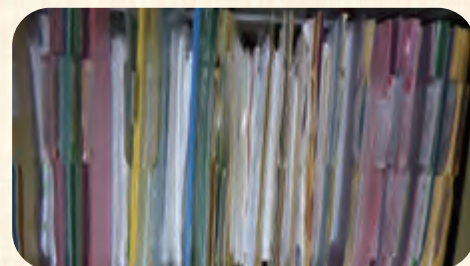
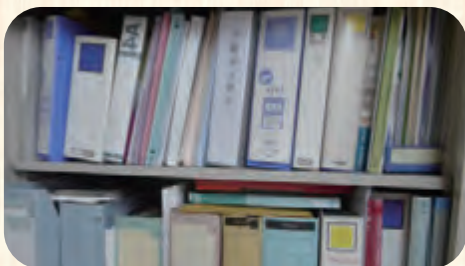
紙文書電子化(スキャン)を!

テレワーク対応
事務所に行かず
電子データで
仕事ができる

オフィススペースの
削減/見直しによる
紙文書の電子化

データ共有、
検索の効率化

上記の理由で紙文書の電子化(スキャン)のご依頼が増えていますが
来年度の業務効率化のために是非ご検討ください



<よくある電子化依頼文書>

技術資料・図面・完成図書・研究資料・検査資料
契約書・稟議書・報告書 など



※2月、3月は繁忙期になりますのでお早めにご相談ください



株式会社 宏和

Kowa Corporation

東大阪市長田東 1-7-22 TEL 06-6789-2313 FAX 06-6789-2339

<https://www.d-kowa.co.jp/>

<https://scanning.jp/>

オンデマンド印刷 会社案内、パンフレット、チラシ、名刺、カード、封筒、シール、伝票、表彰状
冊子印刷 取扱説明書、カタログ、記念誌、広報誌、報告書、論文、自分史
電子化業務 紙文書・紙図面スキャン(電子化)サービス、データエントリー(入力)、データコンバート
CAD業務 CADデータ出力、CADデータ入力(トレース・設計)、電子納品データ作成
コピー・製本 大判コピー、カラーコピー、各種製本、ラミネート、パネル・看板制作
その他 人材派遣、人材紹介、マイクロ撮影、マイクロフィルムスキャン、WEB制作

(株)宏和が毎月お客様へお役立ち情報をお届けします。

コウワノ

MONTHLY NEWS LETTER Vol.64

2021

1

January

コウワノ



Vol.64

発行者：株式会社宏和
所在地：〒577-0012 東大阪市長田東1-7-22 TEL: 06-6789-2313

(株)宏和



あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひ申し上げます。
コロナ禍で迎える新年になりました。昨年は様々な価値観が変わり、ビジネス環境も大きく変化しました。今年はそれを良い変化と捉えられるよう、弊社も変わらなければと考えています。決断と実行が非常に大切な年、まず健康で一年間頑張りたいと思います。

代表取締役 日笠宏昭

最近何かと話題になっている「地政学」

地政学とは、辞書的に書くと「政治的な現象（民族や国家の特質）とそれが生じた地理的条件との関係を研究する学問」です。難しそうですが、現在世界で起こっている様々な紛争や国家間の対立は、この地政学を知ることによってかなり理解しやすくなりますので、今回は簡単にまとめてみることにしました。

地政学でとらえる国家の行動：3つの基本

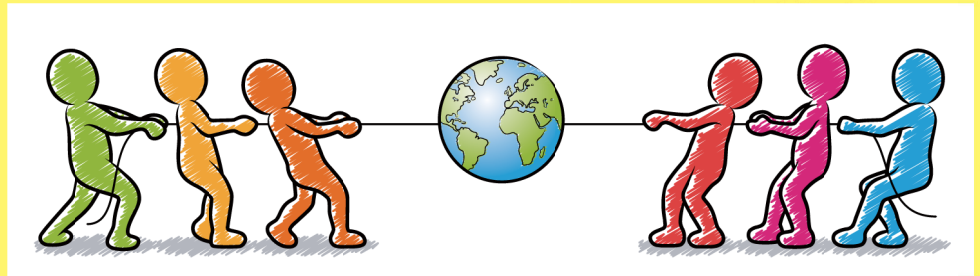
- 国家の行動原理は生き残り
- 隣国同士は対立する
- 敵の敵は味方
戦争は正義対悪でなく生存競争です。第二次世界大戦は列強の勢力争いであり、連合国が勝っても正義が実現した訳ではなく、また新たな勢力争いが生まれています。

地政学での重要な概念

- バランス・オブ・パワー 勢力を同等にして秩序を保つ
- チョークポイント
複数の国を支える物資輸送ルートになっている海峡や運河などの隘路あいろで、これを押さえると世界に影響を与えることができます
- シーパワー
国境の多くを海に囲まれ、海の要所を抑え世界の覇権を握ろうとする国家
- ランドパワー
大陸に大きな領土を持ち、面を広げて覇権を握ろうとする国家

地政学で考える日本の特徴

- 海や季節風といった地政学的優位性で独立を守れた島国
- 明治以降シーパワー（太平洋の覇権）とランドパワー（中国進出）の両方を目指すも失敗
- 第二次世界大戦後、アメリカ（シーパワー）の傘のもと大きな力を持つ
- 北方領土はロシアにとってアメリカをけん制する重要な拠点であり、2000年頃航行可になった北極海ルートを守るためにも必要なため返還は益々困難に
- 沖縄米軍基地は位置的にも基地の設備面でもアメリカにとって完璧な拠点
- 単純な領土争いではない尖閣での対立（ランドパワーの中国がシーパワーも得て覇権を握ろうとしている中での重要なポイント）
- 日本の石油輸入ルートを守っているのはチョークポイントを抑えているアメリカ海軍の力
- 7分間で日本に着弾する北朝鮮のミサイルは相当な脅威



地政学で考える各国の特徴

- 中国
 - はるか昔から国土の広さのために周辺国から攻められる恐怖心のため周辺国を取り込もうとする傾向
 - 漢民族の他に50以上の少数民族がいる
 - 近隣国との国境を固め、国防に割いていたパワーを海洋進出に（ランドパワー + シーパワー）
 - 海上に独自の線（第一列島線、第二列島線、第三列島線）を引き面で領海を広げアメリカの勢力を排除しようとする試み
 - 一帯一路で中央アジア諸国を取り込み（ランドパワー拡大）
 - 習近平の思い描く未来：中国を中心とする大帝国再建
- アメリカ
 - 孤立した大きな島で巨大なシーパワー国家に
 - チョークポイントを抑え、海外に500以上の基地を展開
 - 重要性が低下する中東から手を引きたいのが本音
 - 移民の増加と国民の分断で世界の警察官という使命感は消えていく
 - 2050年にはアメリカの時代は終焉？
- ロシア
 - 世界一の領土で巨大なランドパワー
 - 広大な領土を守るため周辺を協力関係の国で固めバッファゾーンをつくる
 - クリミア併合は黒海ルートの防衛とNATO勢力との対立という地政学的戦略
- イギリス
 - 世界に先駆けて資本主義体制を築き、島国で本土防衛に多くの軍隊を割く必要がなく、余剰分を植民地拡大に転用し19世紀には巨大なシーパワー国家に
 - 沖合いからヨーロッパ諸国の動向を観察し大陸諸国の勢力均衡を図る（オフショア・バランシング）
 - 第二次大戦後は徐々にヨーロッパへの影響力を失う



誌面の関係上、その他の国は掲載できませんが、興味のある方は調べてみてください。

参考文献 世界史で学べ! 地政学 茂木誠 (祥伝社黄金文庫)
マンガでわかる地政学 茂木誠 (池田書店)
サクッとわかるビジネス教養 地政学 奥山真司 (新星出版社)